

巻頭言

愛知教育大学健康支援センター センター長・教授 田中 優司

令和2年となり改元に伴う行事も終わりました。2020年といえば新型コロナウイルスであり、大変な1年でありました。医療界のみならず、社会全体・全世界に影響しています。

2019年末から中国・武漢を中心に原因不明の肺炎が相次ぎ、2020年1月に武漢市から患者の情報が公式発表されました。1月上旬には新型コロナウイルスの遺伝子配列が同定、後にウイルス名はSARS-CoV-2と命名、病名はCOVID-19とされました。1月には国内でも感染者が判明しています。

2月にはクルーズ船ダイヤモンド・プリンセスが横浜港に入港し、感染者が相次ぎました。船上で検疫され、検疫官の感染もありました。

3月にはWHOがCOVID-19の世界的流行からパンデミックを宣言しました。パンデミックは2009年の新型インフルエンザ（A/H1N1）以来とのことです。この頃には感染が拡大する中、マスクの着用がすすめられ、サージカルマスクが全国的に入手困難となりました。医療機関においても医療資材が不足する事態となりました。3月末に東京オリンピック・パラリンピックの延期が決定されました。また著名人の感染が相次ぎ、志村けんさん、俳優さんや大相撲力士の訃報もありました。現在までも、著名人や、芸能人、スポーツ選手の感染もあり、社会へ影響しています。

4月には政府から「緊急事態宣言」が発出され、当初は7都府県でしたが全国へ拡大しました。人との接触を8割削減する、3密を避ける、ステイホームなどが呼びかけられました。5月末には宣言が解除されました。

その後も夏には第2波が続き、現在、年末から第3波が急速に拡大しつつあります。2021年1月には「緊急事態宣言」が再宣言され、愛知県も該当地域となっています。

本学においても、授業開始の変更、構内入構禁止、遠隔授業の導入、部活動やサークル活動への影響、各種の学内行事の開催中止や変更などがありました。本学HPの「新型コロナウイルス感染症への本学の対応について」に情報が随時更新されています。

学生・教職員においては、直接の感染予防対策が重要であります。また学業に関すること、経済的なこと、こころに関することなどにも影響を及ぼしています。様々な対策をすすめております。新型コロナウイルスが早く収束することを祈念しています。

健康支援センターでは、今後も、学生・教職員の健康支援をすすめていきます。

今後ともよろしく申し上げます。